

# 中国文化賞 受賞者の業績と横顔

中国新聞社主催の「第81回中国文化賞」の受賞者が決まった。文化・芸術、学術・教育、地域貢献の各分野で顕著な功績があった中国地方ゆかりの6人。業績と横顔を紹介する。(順不同)

広島市民病院長

## 秀道広さん(67) = 広島市南区



約40年間、皮膚アレルギーの研究や診療に尽くした。常に臨床で直面した疑問を研究に反映させてきた。「教科書の内容では対処できない患者さんがたくさんいた。目の前の現象に向き合い、「まかす」に追究してきた」と振り返る。

じんましんでは、自らの細胞を異物として攻撃する自己免疫により発症するタイプの仕組みを解明。アトピー性皮膚炎では悪化因子となる汗を調べ、カビの一種が分泌するタンパク質がアレルギー反応を引き起こしていることを突き止めた。成果は治療薬や検査法開発のベースとなった。

国内外の診療ガイドラインの作成委員や国際学会の役員を長年務め、2023年には世界皮膚科学会連盟の功労賞を受賞。今も数学者と共同で、じんましんの多様な発疹の形状を数理モ

## 研究を治療につなげる

ひろ・みちひろ 広島市中区生まれ▽1984年、広島大医学部卒▽88年、同大医学博士▽90年、英国セントトーマス病院研究員▽99年、広島大医学部講師▽2001年、同大教授▽16年、同大医学部部長▽20年、同大副学長▽21年、広島市民病院院長

アルを使って解析し、新しい治療への応用を試みる。幼い頃から実験や物作りを好んだ。理工学系の研究に憧れたが、社会や人との関わりも深めたいと、研究と診療の両方に携われる医学の道志した。

広島大医学部の教務委員長時代には、研究マインドを持つ医師の養成へカリキュラムを改革。4年次に学内外で基礎研究に打ち込めるプログラムを設け、海外での研究や国際雑誌への論文発表も促した。「すぐ結果が出なくても10年、20年先に花が咲くような人材育成が大切」と力を込める。

21年、自身が生まれた広島市民病院の病院長に。市民の信頼や期待の大きさを実感する。「全国から若手医師が集まって経験や業績を積み、果立っていく病院にしたい。それが質の高い医療の提供につながる」と思い描く。(鈴木大介)



11月3日(日)

発行所  
広島市中区土橋町7番1号  
〒730-8677  
中国新聞社  
電話(082)236-2111(受付案内台)  
中国新聞デジタル  
<https://www.chugoku-np.co.jp/>

50+ピエエのワフ  
ぶんタッキ  
お子さまの  
タブレット学習に！  
作品投稿コーナー  
好評受付中！  
QRコード